



Data Transparency 2013 参加報告

XBRL Japan 理事
あらた監査法人 シニアマネージャー
中山 崇

1.はじめに

オープン・データとは何か？

オープン・データとXBRLとの関係は？

2.大会概要

- 期間: September 10, 2013
- 場所: Washington DC, Ronald Reagan Buld
- 人数: 主催者発表440人、常時300名弱は聴講
- XBRL関係者

マーク・ボルジアーノ、キャンベル・プライド、ジェフ・ニューマン、後藤さん、マイク・ウィリス、エリック・コーエン、ジャンルカ、デビット・バン・カノン

➤ 参加者層

公的セクターは3割程度？残りは民間企業。

US関係者がほとんど、海外勢はUKからの登壇者のみ？、日本からは2名。

2.大会概要

プログラムはこちらを参照。

<http://www.datatransparency2013.com/index.php/program>

講演者の略歴はこちらを参照。

<http://www.datatransparency2013.com/index.php/speakers>

Datatransparency2013 で検索

3.講演及び議論の紹介

➤ オープンデータ化がもたらすもの
経済成長への貢献

ソフトウェア、データ処理産業の活性化

政府機関の高度化効率化

データ処理技術の活用によるコスト・時間の削減

➤ オープンデータとして提供されるもの

Intelligent Data、つまり意思決定において有用なものとなるデータセットを提供すること。

3.講演及び議論の紹介

➤ オープンデータ化の適用範囲

Finance

Regulation

Science

Geographic

Healthcare

Education

etc

3.講演及び議論の紹介

➤ オープンデータ化のための必要条件

① Free(無償)

② Easy Access(容易に接続)

③ Available(利用可能な状態)

④ **Standardization(標準化)**

⑤ **Machine Readable(機械処理が可能)**

4. 次のステップへ向けて

- オープンデータとXBRLの関係を整理しよう。
- XBRLコミュニティから発信できることは何か。
標準化を行う上での苦労と工夫、もたらしたベネフィット